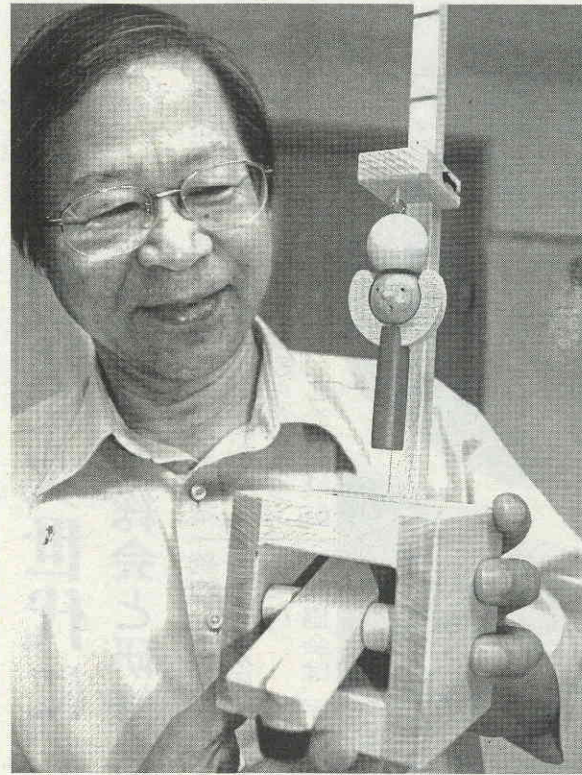


タイと東北 おもちゃの懸け橋

宇治の「アジュール舎」



タイの子供たちの支援金で贈られる木製おもちゃ

子供同士の絆、被災地へ

木の「ストリート」から善意 温もり

東日本大震災の被災地の子供たちを元気づけようと、宇治市内のNPO法人にタイから支援金が届いた。送り主は、親元から離れて路上生活をしている同国のストリートチルドレン。自作の手工芸品の売り上げを役立てた。国境を超えた気持ちは「おもちゃ」となり、24日、福島県内の仮設住宅の子供たちに贈られる。

善意を託されたのは、発達につまずきを持つ子供たちの療育に取り組んでいる宇治市榎島町大幡のNPO法人アジュール舎。

同法人会長の亀口公一さんは震災後、被災地の子供たちに思いを馳せ、「心の栄養素」となるおもちゃを通じた支援を行ってきた。被災地に届けるおもちゃを3月下旬に募集したところ国内外から数千点が寄せられ、法人会員が4～5月に福島県内の避難所などへ届けた。その際、タイの子供たちがストリートチルドレンを支援する財

団を通じ、手工芸品を売って得た資金の一部約2万3000円を寄せた。温かな善意をおもちゃとして被災地に贈ろうと、同法人は支援金で宇治市木幡のおもちゃ作家・松島洋一さんの作品2点を購入した。

おもちゃはいずれも木製で、手触りや質感にも温かみがあふれる。穴の開いた小さな箱を枠の中で組み合わせて幾通りにも玉のルートを作る作品と、この原理で愛らしい人形を飛ばし、高さを変えられるボール状の的にくっつける作品。

タイからの気持ちは詰まったおもちゃなど一式は福島県内のNPO法人を紹介し、同法人の関係者が24日、同県大沼郡会津美里町の仮設住宅団地で開かれる交流会で子供たちに贈る予定。亀口さんは子

供同士の絆や思いやりを喜び、「届け先の東北の子供とタイの子供との間で直接交流が生まれたら」と、新たなつながりに期待している。